

授業方針・テーマ： 【建築・都市を考究しよう】

皆さんが日常的に使っている建物やそれを包含する器としての都市について、各自の興味にもとづいて考究してみましょう。

具体的には、以下の選定図書（全て新書です）のうち1冊以上を読んで、その概要を他者に伝えるための資料を作ってください。そこで得られた知識や啓発された事柄に基づいてあなた自身がテーマを設定し、さらに他の文献を読んだり現地に行って調査をすることにより、そのテーマに関する見解を深め、あなた自身の意見を構築してください。

- (1) 日本の近代建築（上）（下），藤森照信，岩波新書 308,309，1993，岩波書店
- (2) 木造建築を見直す，坂本功，岩波新書 672，2000，岩波書店
- (3) 地震と建築，大崎順彦，岩波新書 240，1983，岩波書店
- (4) 東京の美学 -混沌と秩序-，芦原義信，岩波新書 319，1994，岩波書店
- (5) コンクリートが危ない，小林一輔，岩波新書 616，1999，岩波書店
- (6) 大地動乱の時代 -地震学者は警告する-，石橋克彦，岩波新書 350，1994，岩波書店
- (7) 新・建築入門 -思想と歴史，隈研吾，ちくま新書 016，1994，筑摩書房
- (8) 東京の都市計画，越沢明，岩波新書 200，1991，岩波書店
- (9) 法隆寺の謎を解く，武澤秀一，ちくま新書 601，2006，筑摩書房
- (10) 地震と防災—“揺れ”の解明から耐震設計まで，武村雅之，中公新書 1961，2008，中央公論新社

以上によって得られた成果をレポートとして取りまとめてください。レポートは日本語として正しく、かつ明快な論旨展開となるように心懸けて記述してください。

またパーソナル・コンピュータ（PC）のプレゼンテーション・ツールを用いて発表し、皆さんで討論することによって、自己の主張を相手に理解させる技術を学ぶとともに、他者の言説を正しく把握するための訓練の場としましょう。

習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標

正しい日本語を用いて論旨が明快な文章を作成することによって、論理的な思考力を養います。レポートやプレゼンテーション・コンテンツの作成によって、調査のやり方および発表の技術を修得します。討論によって協調性を高め、議論するための能力を磨きます。

授業計画・内容

- 第1回 基礎ゼミナールガイダンス
- 第2回 このゼミナールの進め方の説明、自己紹介、選定図書の紹介と課題の出題
- 第3回 選択した書籍の申告 / 本学・南大沢キャンパス内の散策と思索
- 第4回 各自が選んだ書籍の内容紹介のための資料を作成する

- 第5回 各自が選んだ書籍の内容を発表する
- 第6回 各自が興味を持ったことや疑問に思ったことを発表し、討論する その1
- 第7回 各自が興味を持ったことや疑問に思ったことを発表し、討論する その2
- 第8回 ここまでの内容を中間レポートとしてまとめる
- 第9回 ここまでで触発されたり関心を持った事柄について、さらに調査する その1
- 第10回 ここまでで触発されたり関心を持った事柄について、さらに調査する その2
- 第11回 調査内容をまとめる
- 第12回 調査内容をまとめて、最終レポートを作成する
- 第13回 調査結果をもとにプレゼンテーション・コンテンツを作成する
- 第14回 調査結果を発表し、討論する その1
- 第15回 調査結果を発表し、討論する その2

全プレゼンテーションに対して教員および学生が採点して、ベスト・プレゼンテーションを選定し、顕彰する

テキスト・参考書等

上記の(1)から(10)までの書籍のうち1冊以上を、各自入手して読んでください。

成績評価方法

欠席せず、課題を普通にこなしている場合「4」を基本とします。これに、発表内容・提出課題・参加態度・出席状況等により、加点・減点を行います。正当な理由なく4回以上欠席した場合は「1」としますのでご注意ください。

特記事項

第2回（このゼミナールの実質初回）に自己紹介をしていただきます。二分程度の自己紹介を考えて来てください。

また、PCによるワープロ・ソフト、プレゼンテーション・ソフト等を使用します。皆さんの進捗の状況によって、各回の予定を変更する場合があります。

備考

担当教員（建築都市コース）のHPは以下の通りです。

<http://www.comp.tmu.ac.jp/kitayama-lab/index.html>

連絡や質問等は、電子メールで kitak@tmu.ac.jp 宛にお願いします。